

## 西巖殿寺

この寺は、九州全土で最も古い寺のひとつです。インドからやって来た最栄（704-760）という僧侶によって 726 年に創建されたとされます。1871 年、西巖殿寺は廃寺となり、山の麓に移されました：新たに発足した非常に国家主義的な明治政府は、仏教を外国から輸入された望ましくないものとして否定し、過去数百年にわたって密接に結びついていた仏教と神道をはっきりと分離させたがったためです。

この寺は参拝者たちの要望に応じて 1890 年に再建されました。その建物は、2016 年の熊本地震とそれに伴う阿蘇山の火山活動によってひどく損傷するまでここに立っていました。現在の建物は 2022 年 8 月に建造されたものです。

西巖殿寺の本尊は、十一面観音と呼ばれる仏教の菩薩です。しかし、この寺の僧侶たちが唱えるお経の第一の目的は、阿蘇山の神聖な火口の噴火を阻止することです。阿蘇山の噴火は飲料水を汚染したり、稲に害を与えたり、牧草を毒して牛に流産させたりと、阿蘇カルデラ全体に多大な被害を及ぼします。

寺の裏手にある石の道は、かつて火口へと登る唯一の経路でした。聖職者だけが頂上まで登ることを許されており、一般の人々は 150 メートルほど登ったところにある関所までしか行けませんでした。大正時代（1912-1926）までは、そこで、恋人たちが婚前の契りを交わすという風習が、盛んに行われていました。